

隣保館だより

編集 下樓隣保館 〒689-4526 日野町下樓157番地1
電話：72-1191 (FAX兼)
E-mail：rinpokan@town.hino.tottori.jp



お便りをいただきました
隣保館学習講座に地区外から参加した人から、うれしいお便りが届きましたので紹介します。

「クレイフラワー教室に参加して」
「興味を誘われて、不器用な私でも教室に参加してみようと思いました。4回シリーズで、初回は少し緊張気味の私に皆さんから気持ちよく話しかけていただき、嬉しくすんなりと仲間に入ることができました。
花びらなど、細かい作業がなかなか出来ないときは、隣の人に聞いたり先生にアドバイスをもらいながら作業を進めていきました。そのうち、段々調子が出てくるおしゃべりしながら大笑い。手を止めて人のを観察し、良いところを見習って自分流にアレンジ。
一段落するとお茶をご馳走となり、なんだかんだ言いながら和気あいあいと、楽しい時間はあっという間です。参加者の中ですっかり打ち解けて、おしゃべりするそんな私です。作品が出来上がると、まるで生花の様にステキです。
4回シリーズを終えて、次回も参加させていただけようと思えます。」

3月の学習講座予定
■生け花(草月流) 3月16日(火) 午後7時30分
会場 下樓集会所(講師：牛田清子さん) ※花代が必要です。
▼日程など変更になることがあります。詳しくは下樓隣保館へ
▼講座は2時間の予定です。町民どなたでも参加できますので、お気軽に参加ください

盤を挟んで熱戦
新春恒例の囲碁将棋大会が、1月10日に老人憩の家で開かれました。
大会には、町内外から23人



真剣勝負が続く

が参加し、熱戦を繰り広げました。
今年も、小学生の参加者もあり、大人からアドバイスを受けながら対局に臨んでいました。
優勝者は次のとおりです。
将棋の部＝西村春夫さん
(下樓)
囲碁の部(上級者)＝西村正満さん(下樓)
囲碁の部(初級者)＝松本進さん(根雨)
各優勝者には、隣保館長から賞状とトロフィーが贈られました。

抹茶の頂き方など学ぶ
隣保館講座の初めての取り組みとして、お茶会とお菓子作りを併せて行いました。
増原寿子さん(黒坂)を講師に、サツマイモの茶巾絞りとお茶の作法を指導していただきました。
歩き方、立ち居振る舞いの一つ一つが理にかなっていることなど、丁寧な説明で作法を習うことができました。
この日は、地区外の参加者2人のほか13人が参加。
また、陶芸教室で作った茶碗を持参した人など、楽しく



慣れない動作に緊張

和やかな中にも背筋が伸びる思いで、お点前を頂いていました。

人権のまちひの

地域みんなで 子育てを

■部落解放研究第43回全国集会参加報告



田貝嘉彦

昨年10月24日から26日にかけて広島県福山市で開催された、部落解放研究第43回全国集会に参加しました。会場となった福山市緑町公園屋内競技場「ローズアリーナ」は、全国からの参加者でいっぱいとなり、熱い思いと熱気が感じられました。

バラに囲まれた研究集会
主会場の「ローズアリーナ」は、名前のとおりバラの花で覆われたバラ園が近くにあり、市内にはバラで飾られたバスやバラのマークで装飾したお店などが溢れ、市民がバラを大切にしていることが感じ取れました。

世界に核の廃絶を
今回の集会は、「差別・貧困・格差を打ち破る」「平和・人権・福祉」の研究・実践を進めよう！」をテーマに開催されました。

初日には、被爆された坪井直さんが、核廃絶を目指して平和の大切さと戦争の悲惨さを語り継いでこられた体験のもと、世界から核の廃絶と戦争の根絶を強く訴えました。

学力格差とその背景

記念講演では、志水宏吉さんが、「学力格差の社会背景とその検証 学力保障に資する調査と施策を求めて」と題して講演。学力調査から学力向上と学力保障の取組みに一

定の効果が上がっている事例が紹介されました。その中で特に印象的だったのは、子どもの学力と大きくかわる要因として「家庭」「地域」「経済力」の3つが取り上げられていたことです。

家庭や地域のかかわりが
学力の土台に

志水さんは、子どもの学力を支えるのに、家庭のかかわりが大きな影響を与え、集落内の行事、例えば祭りや集落で取り組むボランティア活動などが常識や情緒、心を育て、直接的ではないが学力の土台（基礎）を作り上げていることを紹介されました。

教育費も大きな課題

また、「収入が教育費にどれだけ回せるかが、子どもの学力向上や学力保障、将来の就業選択の広がり大きく影響する」として、中学卒業、高校卒業、大学卒業に分け3

年の内に離職する割合は、それぞれおおむね7割、5割、3割と高学歴ほど低くなっている。その理由としては就職時点の年齢の違いや、希望する仕事に就けたか就けなかった、などが大きな差を生んでいる要因ではないかと説明されました。

転職も難しく、正規職員としての雇用も難しい不況下では、特に考えさせられる調査結果だと思いました。

地域での体験が大切

さて、私たちがいま取り組めることは何があるだろうと考えてみると、学校でのかわり（学習指導・豊かな生徒指導など）のウエートは大きいとは思いますが、地域連携・家庭連携などにより地域の子どもたちを支えることで、学習に対する目標も高くなっていくと思います。

また、体験することが少な

小地域座談会の開催をお願いします

本年度も残すところ1カ月余りとなりました。町人権・同和教育推進協議会では、3月末（年度末）までに各自治会で小地域座談会の開催をお願いします。本年度は、「人権尊重のまちづくりをしよう」をテーマとして、誰もが安心して安全に暮らせる地域づくりのための話し合いをお願いします。自治会長さん、自治会の皆さんのご理解をお願いします。

くなった伝統・文化行事への参加も大切なことだと感じました。一方、社会制度としての教育費対策も大きな課題だと思えます。

分科会では「子どもの貧困と学力問題、人権教育を考える」に参加しましたが、キーワードは「貧困」「教育格差」「学力調査」「社会保障」で、子どもの学力を向上させるのに何ができるのか討議を深めました。

親の所得に関係なく「小さいころから絵本の読み聞かせをする」「ニュースや新聞記事について子どもと話をする」など、身近で取り組むことができる事例が紹介されました。

地域で育む子どもたち

少子化の中、将来を担ってくれる子どもは地域の宝です。希望に満ちた子どもたちを育てていくのに何ができるのか地域で話し合い、家庭はもちろんだ地域全体で実践することで子どもたちを大切にたくましく育てていきたいと強く思いました。

